

Course number		U-LAS02 10029 LJ35					
Course title (and course title in English)		日本・東洋音楽史 I History of Japanese and East Asian Music I			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,SUZUKI SEIKO
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Arts, Literature and Linguistics(Foundations)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	Number of credits 2
Number of weekly time blocks		1	Class style		Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2025・First semester
Days and periods		Wed.2		Target year		All students	Eligible students For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>テーマ：職能としての音楽芸能の歴史</p> <p>古来、日本では「音楽」と「芸能」は分かちがたく結びついてきた。また、それらの音楽芸能は、中央の儀式音楽等から周縁の門付け芸等まで、身分制度や社会環境などによって決定づけられた人々によって担われてきた。神話時代から現代までの職能音楽芸能者をいくつかのテーマに沿って概観しつつ、職能音楽芸能者に関心が集まった近現代の思想のパラダイムをメタ的に考察する。</p>							
[Course objectives]							
日本の歴史における職能音楽芸能者に関する基礎的な知識を習得するだけでなく、それらの芸能者を対象とした近現代の研究のパラダイムをメタ的に考察することができるようになる。							
[Course schedule and contents)]							
<p>イントロダクション</p> <p>神話・縄文・弥生：巫女・わざおぎ</p> <p>古代：陰陽師・楽師・散所の人々</p> <p>中世：楽師・白拍子・琵琶法師・声聞師・説教師</p> <p>近世（１）：琵琶奏者・芸者・花魁</p> <p>近世（２）：物売り・浄瑠璃の太夫と三味線弾き・噺家</p> <p>明治・大正・昭和前期：楽師・音楽教師・鶯芸者</p> <p>昭和前期・後期：浪花節師</p> <p>昭和後期（１）：放浪の芸能者</p> <p>昭和後期（２）：猿廻し師</p> <p>昭和後期（３）：説教者</p> <p>昭和後期（４）：ストリップの踊り子</p> <p>沖縄の音楽芸能者</p> <p>アイヌの音楽芸能者</p> <p>フィードバック</p>							
[Course requirements]							
None							
[Evaluation methods and policy]							
<p>毎回のコメントシートの提出（60点）、期末レポート試験（40点）</p> <p>・4回以上授業を欠席した場合には、不合格とする。</p> <p>・コメントシートおよびレポートは、独自の工夫が見られるものについて高い評価を与える。</p>							
Continue to 日本・東洋音楽史 I(2)							

日本・東洋音楽史 I(2)

[Textbooks]

パワーポイントによる講義資料を使用する

[References, etc.]

(References, etc.)

藤井知昭・馬場雄司(編)『職能としての音楽(民族音楽叢書)』(東京書房、1990年)

鵜飼正樹『見世物稼業：安田里美一代記』(新宿書房、2000年)

渡辺裕『日本文化モダン・ラブソディ』(春秋社、2002年)

田中健次『図解 日本音楽史 増補改訂版』(東京堂出版、2018年)

徳丸吉彦『ものがたり日本音楽史』(岩波ジュニア新書、2019年)

徳丸吉彦監修『ビジュアル日本の音楽の歴史』(全3巻)』(ゆまに書房、2023年)

鈴木聖子『沖縄音楽の録音採集における周縁性の諸相』(『GENESIS』、20、2016年12月、34-46頁)

鈴木聖子『掬われる声、語られる芸：小沢昭一と『ドキュメント日本の放浪芸』』(春秋社、2023年)

鈴木聖子『小沢昭一の「ベートーヴェン人生劇場 残侠篇」 『題名のない音楽会』における日本の伝統音楽・伝統芸能の役割』

沼口隆・安川智子・齋藤桂・白井史人編著『ベートーヴェンと大衆文化：受容のプリズム』(春秋社、2024年)

[Study outside of class (preparation and review)]

日本の伝統的な音楽について、受講期間中に必ず一つは生演奏を聴く経験をもつこと

[Other information (office hours, etc.)]